

## 支 部 長 挨拶

本年6月3日に開催された第1回支部理事会において北海道支部の支部長に選ばれました。身に余る重責とは思いますが、札幌管区気象台長という立場に対してご推薦いただいたものでもあり、お引き受けすることといたしました。関係の方々のご指導御協力を得つつ、微力ではございますが、支部の発展に尽くしたいと考えておりますのでどうぞよろしくお願い致します。

昨年度の当支部の大きな課題でありました札幌での秋季大会は、大西前支部長の指揮のもと、役員や会員諸氏のご協力により、647人の参加、431題の一般講演と、成功裡に開催することが出来ました。ここに改めて関係のかたがたにお礼と賞賛の意を表したいと思えます。

また、本年は国際地球物理学連合（IUGG）の総会が札幌市で開催され、会員各位におかれましても国際的な活動の一端を知りえる有意義な場となったことと思えます。

気象学は、その学術的知見が実社会に反映されて、防災のための警報・注意報、日々の天気予報、農業や産業への利用が期待される季節予報などに反映されております。近年の気象学の発展、観測技術の高度化、情報・通信システムの高度化により、予報精度は着実に向上してきておりますが、例えば集中豪雨などの予測、季節予報などにまだまだ大きな課題を残しております。

本年8月には台風10号が北海道に記録的な大雨をもたらし、日高・十勝地方を中心に大きな被害を受けました。また、本年の夏はわが国では冷夏、一方、ヨーロッパでは酷暑により、社会経済活動にも大きな影響がでました。このような激しい気象現象や地球規模での気候変動について、さらに理解が深まることが望まれます。

学会の活動を通じて気象学の知見が深まることは、人間の知的好奇心を満たすのみならず、予報精度の向上など様々な恩恵をも与えてくれることでしょう。また、学会による普及活動は、昨今の青少年の理科離れを少しでも減らすことにつながるものと思えますし、気象の知識の普及を通じて気象現象に関する理解を深める事は気象情報の利活用においても極めて重要なことであり、これら学会の活動を活発にしていくことが大切と思っております。

北海道では、従来から北海道大学を始めとする研究・教育機関の方々、民間気象事業者の方々、札幌管区気象台などの気象官署が、それぞれの持ち味を生かして学会運営に携わってきておられます。これまで培われた素地を大切にしつつ日本気象学会北海道支部の活動をさらに活発にしていきたいと思いますので、ご指導、ご鞭撻のほど、重ねてお願い申しあげ私のご挨拶といたします。

(社) 日本気象学会北海道支部  
支部長 櫻井 邦雄  
(札幌管区気象台長)